上野幌育種場より

はじめに

先報（七月号）で春夏の作況や育種場往来を主とした上野幌育種場だよりをお知らせ致しましたが、その後は多雨で圃場管理や乾草作りには苦労はありましたが、作況も予想外の好転で、秋まきを終えサイレージ切込みの秋仕末作業へ突入した昨今でございます。

一　育種関係

飼料作物では幣場育成の赤クロバー耐病性品種**ハミドリ**のアメリカでの委託採種分について後代検査を農林省農試や、道立農試と連繋試験を実施しておりましたが、現在迄の処開花期が二～三日早まる程度で他の特性は育成品種とは殆ど変わらず、洋行帰りのハミドリは却って若干の早生化で形質的には良化されて来る様で一安心というところです。今年は道内生産も著しく伸び、アメリカ採種のものも安心して使えますので来春は大いに御利用願いたいものです。

青刈燕麦太豊、豊葉は各地で好評を得、今まで寒冷地帯の現地の声はあまりききませんでした今年は来場者の中でも二、三の方々から五ト収かくの喜びと感謝に接して恐縮して居りますが、特に太豊は採種量の面で伸びなやみの態でしたが、太豊と非常に特性の似たR六六二〇×カルバーソンの交配系統が生産地帯でも頗る採種量多く、**新太豊**として大いに御利用願える時期も近いと思って居ります。飼料作物の育種では常につきまとわれる問題ですが、草が多い様に改良すれば種子は少なくなる。「忠ならんとすれば孝ならず」重盛の心境に似たものを感じますが、決してそれであきらめず一歩一歩改良を進める根気でやって居ります。

黒田六尺という銘柄で全国酪農家の間で根強い信頼を得て居りました静岡産の黒千石も最近の高地価や経営の移行で生産が極減して来ましたが、それに代るものとして「**改良新黒千石**」が来春より登場いたします。

大葉で、主茎の無限伸長タイプを狙った、日本大豆と中国の秣喰豆との交配種で、岩手県に於ける生産態勢も逐次確立しましたのでこれまた御利用をお待ちいたしております。

蔬菜類では**かんらん**の不和合性を利用するF_1の研究を進めておりましたが、作出第一号として早生と中生の中間品種で極めて好ましいものが完成しました。明年度は広く試作をおねがいし御批判を仰ぐ予定であります。

二　飼料研究

飼料研究室も開設二年の今年は分析実験から現場動物試験へと態勢の整備を行なってまいりましたが、乳牛では特に**犢用育成飼料**、**鶏は添加剤**の試験を行なっております。

生年月日を同じうする犢が七～八頭もズラリ頭を並べてエサを待っている様は可愛くもあり、これを育てる責任感もあり中々なものです。育成飼料の狙いは牛乳は初乳を含めて一週間でやめ、あとは手間のかからない粉飼と、水、乾草で育成しようという、省力、経済的飼料という事で、来場者も栄養の良好と、順調な発育に早期の製品化を期待する声が強いのですが、更に慎重に回を重ねてと、来春まで待っていただいております。

鶏配も実際飼養で幾多の教訓を得、これまた一歩一歩寒地養鶏用飼料の完成を期しております。そして単なる飼料試験に満足せず経営試験もと、一、〇〇〇羽の経済検定鶏舎の建設に着手致しました。つまり理論と変動の激しい経済の両面からの飼料研究をという態勢に入るわけです。

三　原々種、原種生産

早期来霜を心配される一、二の作物もありますが、大方は順調な生産で、生産課との密な連繋で一日も早く、希望するだけお届け出来る生産態勢の確立に近づこうと努めております。

さいごに

上野幌育種場だよりもこれが今年の最後になりますが、省みますと、まだまだやりたい事もたくさんあり、力の足りなかった事もありますが、とにかく社会全体の底に流れている農家と共に歩み、農家と共々栄えようとする気持ちは場員一同誰れにも負けないだけ持って日常の仕事にあたっているつもりです。

今年は随分研修の場としても皆様に御利用願いました。全道酪農協の種苗、飼料担当の部課長さんの研修、Y乳業第一線補導員の国内留学、自営を目ざす府県農高生の夏季実習、弁当持参の各地の酪農家等々、いずれもその熱心さには頭の下がる思いです。それに引きかえ、手の放せない仕事があったり、行事が重なったりして充分な事の出来なかったことも間々あったことを深くおわび申し上げます。

しかし、どなたもが最後に申してくれる「これで名前と現物が一致するようになった」の言葉に来場によって幾何なりとも御満足していただいたものと、ひそかに自慰している次第です。種苗も飼料も絶えず研究進歩します。どうぞ来年もまおた越し下さい。そして現地の生の声をおきかせ願います。皆様の経営を通じて生まれ出る声こそ、とってもって私共の仕事の指針となるからです。（切り込みのカッターの音をききつつ九月二八日三浦記）

場長の説明に耳をかたむける研修者
（全道農協担当者研修会）